



中学生が本格的なニュース番組を制作！

～情報教育推進事業「中学生のための情報番組制作ワークショップ」を開催～

と き 8月5日(火)午後1時～5時

と ころ 日本大学芸術学部江古田校舎(練馬区旭丘2-42-1)

5日、区内の中学校に通う生徒24人が、日本大学芸術学部のスタジオ機材を使って、ニュース番組の制作を体験した。

これは、大量の情報が溢れている現代社会において、情報を正しく読み解き判断する力を身につけてほしいと、平成22年度から情報教育推進講座として区と日本大学が協働で実施しているもの。

番組中に流すニュース映像として、同じ敷地内にある保育園とパン屋の関係性を取材した「おしゃれな練馬」や、古くから続く農家を取材した「素敵すぎる！室町時代から続く農家」など4つの「ご当地ニュース」を制作。同大学芸術学部の鈴木康弘教授の指導のもと、9日間かけて企画から撮影、編集作業までを行った。

スタジオではこれらのニュース映像を絡めながら、実際の番組制作と同様に演出、フロアディレクター、タイムキーパーなどの役割を中学生が担い、30分間の情報番組として仕上げていった。

ディレクターを務めた3年生の男子生徒は「ディレクターの役割は大変でしたが、とても貴重な経験ができました。みんなで頑張れたので、いい番組に仕上げることができたと思います。」と話してくれた。

この日制作した番組は6日、講師を務めた鈴木教授による講演会「テレビ・メディアを考える」で上映される。(当日会場受付、入場無料)



【スタジオ収録の様子】



【裏方をこなす中学生】

【スタジオ収録の様子】

番組は本物のニュース番組と同様に、キャスターの掛け合いと、中学生たちが編集したニュース映像を織り交ぜながら、30分間に仕上げていった。キャスター役は同大学の学生2人が務め、中学生たちはキャスター以外の全ての裏方(「演出」、「フロアディレクター」、「タイムキーパー」、「カメラマン」、「照明」、「音声」など)を担当した。これは、充実した施設・設備の使用と専門の講師陣の指導により、情報番組を制作する仕事についても理解を深めることのできる職業体験等をねらいとしている。

「タイムキーパー」の指示のもと、「フロアディレクター」は、大きなスケッチブックに「もう少しゆっくり」などを書いてキャスターに見せたり、手を広げてカウントしたりと、中学生たちは真剣な表情で自分の役割をこなしていた。

【情報教育推進講座について】

テレビやインターネットなど、さまざまな媒体で大量の情報が溢れているなかで、子どもたちは情報を読み解き判断する力を身につける必要がある。そこで、企画立案・取材・編集・キャスター収録などニュース番組の制作体験を9日間にわたって行い、どのようにして情報が作られているのかを学び、情報を読み解き判断する能力の向上を目的に実施している。

【上映会(講演会)について】

講演会「テレビ・メディアを考える」～番組上映と講演～

【日時】 8月6日(水) 午前10時～11時30分

【会場】 日本大学芸術学部江古田校舎E棟B1教室

【講師】 日本大学芸術学部放送学科主任教授 鈴木 康弘 氏

【問合せ】 こども家庭部 青少年課 育成支援係 電話03-5984-1292